

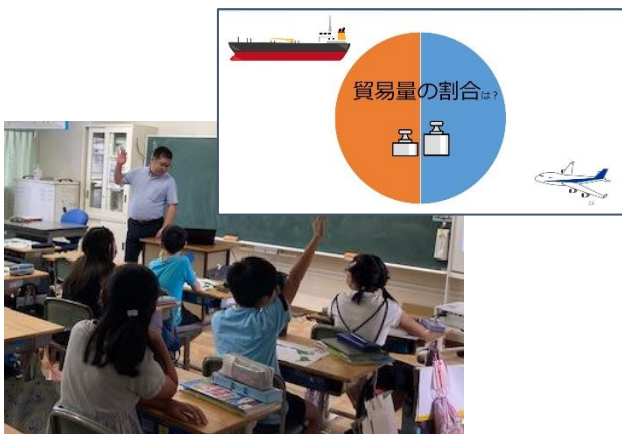
2023年10月6日

日本船主協会 企画部広報室

三郷市内の小学校において出前授業を実施
～日本を支える海運を様々な角度から紹介～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力やオンラインコンテンツの制作などに取り組んでおります。

9月30日（土）に、埼玉県三郷市立立花小学校の5年生約30名を対象に海運に関する出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。今回の出前授業は、埼玉県小中学校教員対象の海事講座・海事施設見学会（8月14日付レポート参照）に参加した教員からの依頼により実施いたしました。



授業では、まずは児童が楽しく学べるよう、船が登場するテレビCMやゲームにも言及しながら、クイズも交えつつ海運が日本の貿易量の99%以上を担っている事をはじめその役割の重要性について説明し、日本の生活には海運が欠かせないことを伝えました。

次に、自動車産業を例に挙げ、自動車を構成する約3万点の部品や原材料の多くは海外から船で輸入しており、運ぶものに応じて様々な船の種類があることを紹介した他、コンテナの模型を配布し、常温のコンテナでは自動車部品だけでなく様々なものを運んでいること、リーファーコンテナという温度調整ができるコンテナがあることや、コンテナ船がどのようにして荷物を積み下ろししているかについて説明しました。



また、日本の自動車の年間生産台数の約半分は輸出され、その大半を自動車船で運んでいることについて、効率よく大量の荷物を運ぶための工夫や、航空機と比較して安く運ぶことができることなど船による輸送のメリットを説明しました。更に、アメリカ東海岸やヨーロッパへ運ぶ際の航路について地図を配布し児童に描きこんでもらい、東海岸への航路で通過するパナマ運河の仕組み

について説明し、パナマ運河と同じ仕組みの見沼通船堀（さいたま市）についても紹介しました。

加えて、船を動かしている船員が船上でどのように働き生活しているかについて、主に航海士と機関士の仕事を紹介しつつ説明を行いました。

船を動かす船員

JSA 一般社団法人 日本船主協会
THE JAPANESE SHIPOWNERS' ASSOCIATION

船は24時間、365日動いている！

人やものを安全には運ぶことで、
人々の暮らしを支え、豊かさをお届けすること

エッセンシャルワーカーである船員が支えています
(必要不可欠な仕事)

134

先生からは、沢山の内容が含まれており、特に 5 年生が今後社会科で勉強する工業生産や自動車産業といった内容の良い導入となったのではないかと感想をいただきました。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上